

宮崎県議会
全員協議会会議録

令和5年1月20日（金）

場 所 本会議場

午後1時0分開会

知事説明

知事のコロナ感染に係る一連の経緯等について

出席議員(36名)

井本 英雄	川添 博
窪菌 辰也	坂口 博美
佐藤 雅洋	武田 浩一
徳重 忠夫	外山 衛
中野 一則	西村 賢
野崎 幸士	濱砂 守
日高 利夫	日高 博之
日高 陽一	二見 康之
蓬原 正三	丸山裕次郎
右松 隆央	安田 厚生
山下 寿	山下 博三
横田 照夫	岩切 達哉
太田 清海	田口 雄二
満行 潤一	山内佳菜子
河野 哲也	坂本 康郎
重松幸次郎	前屋敷恵美
来住 一人	井上紀代子
有岡 浩一	函師 博規

欠席議員(1名)

星原 透

※ 多数会派・50音順

執行部出席者

知 事	河野 俊嗣
副 知 事	日隈 俊郎
副 知 事	永山 寛理
総合政策部長	松浦 直康

事務局職員出席者

事務局 長	渡久山 武志
事務局 次長	坂元 修一
総務 課 長	濱崎 俊一
議事 課 長	鬼川 真治
政策調査課長	伊豆 雅広

◎ 開 会

○二見康之座長 全員協議会を開会いたします。

まず、議長から御挨拶をお願いします。

◎ 議長挨拶

○中野一則議長〔登壇〕 皆さんお疲れさまです。全員協議会が開催されるに当たり、一言御挨拶を申し上げます。

本日は、緊急の招集にもかかわらず御出席いただき、ありがとうございます。今回、知事が新型コロナウイルスに感染した際に、特に県民への情報提供の在り方に混乱が生じた事案につきましては、私としても誠に遺憾に思うところがあります。このことについて、先日、議会に対して知事が直接謝罪したい旨の申出がありました。

私としましては、それは当然のことだと思ひ、議員の皆さん全員が説明を受けると判断しましたので、本日、全員協議会を開催することにしました。

なお、さきの幹事長会議において協議していただき、各会派に質問の機会を設けるなど調整を行ったところであります。

この後、経緯や処分について知事から説明がありますので、全員協議会の円滑な進行に御協

力をお願い申し上げまして、御挨拶といたします。〔降壇〕

○二見康之座長 ありがとうございます。

本日の日程は、お手元に配付の次第のとおり進めたいと思いますので、御了承ください。

それでは、知事のコロナ感染に係る一連の経緯等について、知事から説明をお願いします。

◎ 知事説明

○知事（河野俊嗣君）〔登壇〕 このたび、議員の皆様におかれましては、大変お忙しいところ全員協議会を開催し、私のコロナ感染に伴う一連の経緯について謝罪及び説明の機会をいただき、誠にありがとうございます。

まず冒頭におきまして、年末年始にかけての私の誤った対応、判断につきまして謝罪をさせていただきます。

私は医療非常事態宣言下において、県民の皆様に、感染拡大防止のため、最大限の警戒と、高齢者及び地域医療を守る行動をお願いする中、幾分体調の異変を感じながら、宮崎神宮などの参拝のため外出をしておりました。

また、私の行動に関する情報提供において、報道機関に対しまして、一度提供した記載内容の変更の相談を行うとともに、不十分な内容での情報提供を行いました。そして、こうした一連の対応により、県政への信頼を大きく失墜させることとなりました。このたびのことは、私の軽率な行動、判断の誤りが起こした事態であり、その責任を痛感しております。

改めまして、議員の皆様、そして県民の皆様、全国の本県ゆかりの皆様に、深く心よりおわびを申し上げます。誠に申し訳ございませんでした。

それでは、私の年末年始の行動及び報道機関

への対応についての経緯と、私自身の処分の内容について説明をさせていただきます。

お手元の配付資料に記載しております一連の経緯に沿って御説明申し上げます。まず、12月29日、30日には、挨拶回りで県内各地を訪れております。31日は、15時過ぎに宮崎神宮及び宮崎県護国神社、これは選挙後初めての参拝をしたところでございます。その後、16時頃に宮崎八幡宮を訪れたところ、ちょうど大祓式が始まろうとしていたタイミングでお声がけをいただいで参加したところであります。

1月1日は、14時頃、初詣のため宮崎神宮、宮崎県護国神社を訪れ、それ以外の時間は公舎で過ごしておりました。その間の症状としましては、コロナの陽性が判明した後に振り返ってみれば、12月30日の夜から多少喉の痛みを感じていたように思いますが、選挙後は喉がいがらっぽい状態が続いており、喉を酷使した影響によるものと考えておりました。もっと慎重に判断し、行動すべきであったと深く反省しております。

1月1日の夕方から倦怠感を感じ、喉の痛みも増し、そして2日の朝になって38度の発熱がありましたので、抗原検査キットによるセルフテストを行い、陽性が判明したところであります。その後、6日まで自宅療養とし、8日に公務に復帰したところであります。

次に、宮崎日日新聞社に掲載された「知事の動き」の変更相談について、御説明申し上げます。

宮日新聞には毎日、「知事の動き」というタイトルで、その前日の私の行動歴を掲載いただいております。公務及び政務等に関する行動歴で、その内容は秘書広報課の職員が原稿を作成し、その日のうちに宮日新聞社に提供して、翌

日に掲載されるという流れになっております。

1月1日分につきましては、1日の夜、職員から宮日新聞社に対し、「14時宮崎神宮、県護国神社に初詣、終了後公舎へ」と提供をしております。

翌2日に私のコロナ陽性が判明して以降、職員から宮日新聞社に対して、メールと電話で「終日公舎などで過ごす」という記載内容への変更を相談しております。その際、事前に職員から私に対し、「差し替えが可能ならば、記載内容の変更の相談をしないか」との提案がありましたが、その時点で、はっきり否定するなど、明確な判断及び指示を行いませんでした。真摯に反省すべきものと考えております。

またあわせて、1月2日の私のコロナ感染に関するプレスリリース資料の中では、1月1日の私の行動履歴を、「公舎などで過ごす」と記載し、宮崎神宮等への初詣の記載をしております。このことにつきましても、事前に職員からその記載内容について確認がありましたが、明確に記載すべきだとの指示を行っておりません。適切な判断を欠いた対応となりましたことを、深く反省しております。

その後、宮日新聞社から、「「知事の動き」の記載内容の変更は認められない」という回答があったことを受けて、プレスリリースを私なりに補完するために、フェイスブックで、初詣も含む行動歴を追加して投稿したところであります。本来であれば、公式のプレスリリースで追加情報を提供するよう私が指示すべきであったところを、これについても誤った判断、対応であったと深く反省をしております。

一連の経緯は以上であります。このように、私の軽率な行動や誤った判断が大きな問題を引き起こし、県政に対する信用を失墜させ、県議

会をはじめ県民の皆様へ、大変御迷惑や御心配をおかけすることとなりました。深く反省をしております。

今回の件につきまして、全ての責任は私にございます。このため、私自身に対する処分を科したいと考えております。

その内容としては、給料の減額措置を行うこととし、具体的には、給料の100%を2か月間減額したいと考えております。減額に必要な条例案につきましては、2月定例会においてお諮りしたいと考えておりますので、県議会の皆様におかれましては、何とぞ御理解を賜りますようお願い申し上げます。

今回の問題を受けまして、その深い反省に基づき、まずは私自身が県政を担うトップとして、意思決定や指示等を適切かつ明確に行うとともに、職員に対しまして、改めて組織内での適切な情報共有や判断を行うこと、また県民の皆様や報道機関の皆様への迅速かつ正確な情報提供を行うこと、その徹底を図ってまいります。

今回の私の誤った対応と判断が、県政に対する信頼の失墜につながったことを深く反省し、一日も早く県民の皆様への信頼を取り戻すことができるよう、責任ある県政運営に努めてまいります。

現下のコロナや物価高騰等で大きな影響を受けておられる県民の生活や経済活動の一刻も早い本格的な回復や、さらなる県勢発展に向け、誠心誠意取り組んでまいります。以上であります。〔降壇〕

○二見康之座長 以上で説明は終わりました。

◎ 質 問

○二見康之座長 それでは、質問に入りたいと

と思いますが、事前に質問の申出がありました会派を順次指名いたしますので、よろしく願います。

まず、自由民主党、横田照夫議員。

○横田照夫議員 自由民主党の横田照夫です。自由民主党を代表しまして質問させていただきます。

今回の案件につきましては、私たち議員の下にも多くの県民から、厳しい意見や事実を明らかにしてほしいといった声が届いています。ただいま知事から、一連の問題に関する謝罪と経緯の説明がありましたが、私は、新聞報道やプレスリリース、フェイスブックなどを見て質問をまとめさせていただきました。知事の発言と重なる部分もありますが、何点か質問をさせていただきます。

まずは、改めてこれまでの経緯を伺い、問題点を整理していきたいと思えます。

事の発端は、先ほど説明もあったように、知事が12月30日頃から喉の痛みを感じていたにもかかわらず、31日から元日にかけて初詣などに出かけられたことではないでしょうか。

くしくも知事は、年末の12月27日、医療非常事態宣言の発令に関する記者会見の場において、県民に対して、混雑した場所や感染リスクの高い場所への外出・移動は控えること、また、少しでも体調に異変がある場合も出勤や登校など外出・移動は控えることを要請しておられました。にもかかわらず、知事自らがその要請に反する行動を取ってしまったことになりませんが、あまりにも軽率な行動ではなかったかと思えます。改めて、体調に異変を感じている中で外出をし、しかも、多くの人出が見込まれる初詣になぜ出かけられたのか、説明をお願いいたします。

○知事(河野俊嗣君) 改めて、行動歴から御説明を申し上げるところであります。

12月29日、30日、これは後援会用務で県内各地を訪れたところでもあります。また31日は、宮崎神宮、護国神社への参拝、そしてその後、宮崎八幡宮の大祓式に参加をしております。1月1日は、初詣のため宮崎神宮、護国神社を訪れて、そのまま公舎で過ごしたところがございます。

選挙戦が大変激しい選挙の後ということもありまして、それぞれ行った先々では多くの方から、慰労の声、また「よかったですね」という激励の声をいただいたところがございます。温かい歓迎も受けたところではありますが、そうした中で、濃厚接触に該当するような行動はなかったと考えております。

感染の症状として、先ほど御説明しましたように、振り返ってみれば、30日の夜から喉の痛みというものが、それまでの喉のいがらっぽい状況がありましたが、痛みがより強くなってきたのかなというところ、これも深く反省をするところではありますが、議員の御指摘がありましたように、医療非常事態宣言が出され、体調に異変がある場合は慎重な行動を求めらる中で、より慎重な判断、そして行動というものが求められていたということ、改めて深く反省するところでもあります。

○横田照夫議員 知事の年末年始の行動の詳細につきましては、先ほどの説明でも理解いたしました。

一方で、今回の件では、不適切な情報提供の在り方についても、非常に大きな問題として取り上げられております。1月3日の宮崎日日新聞に掲載された、1月1日の「知事の動き」の記載内容や、1月2日に発出されたプレスリ

リース、そして、その日に投稿された知事個人のフェイスブックに関する部分です。

それぞれの段階における職員の動きであるとか知事の判断の経緯、そのタイミングを明らかにし、問題点を整理するためにも、改めて時間軸に沿った形で詳細を伺っていきたいと思います。

まずは、宮崎日日新聞に掲載された「知事の動き」についてですが、1月1日には、初詣に出かけたことを掲載するよう宮日新聞社に依頼していたにもかかわらず、1月2日に、知事のコロナ感染が明らかになった後、職員が記載内容の変更を相談するに至った経緯と、知事はそこにどう関わり、どういう判断をしておられたのか、実際の対応状況について、できるだけ詳しく説明してください。

○知事（河野俊嗣君） まず、「知事の動き」の原稿の作成に当たりましては、登庁日でない、例えば日曜日とか休みの日に関しましては、どのような記載事項があるかというのを、職員から私に確認が参ります。したがって、今御指摘がありました1月1日の内容につきましては、私から、1月1日には初詣があったということを伝えた内容でございます。

そして今、これも反省でございます。もともとこの初詣というのが、通常「知事の動き」に載せるべき政務ないし公務に値するものではありませんので、載せるかどうか、最初その情報提供を迷ったところがございます。ただ、今年は年末年始を県内で過ごして、初詣も行かなかったんだらうかと、その「知事の動き」を御覧になった読者の方が思われるのではないかと、そこはやはりちゃんと行ったということをお伝えすべきではないかということで、少し迷う中でそれを提供したところがございます。

それが後の判断を誤らせた部分がございます。したがって、その1月1日の初詣につきましては、1月1日の夜の時点で、先ほど御報告しましたように「14時、宮崎神宮、護国神社に初詣、終了後、公舎へ」と報告をしたところでございます。

ただ、その後2日の朝に私のコロナ陽性が判明した後、職員から宮日新聞社に対してメールと電話で、その記載内容について、「終日、公舎などで過ごす」という記載内容の変更を、相談を差し上げたところでございます。

その宮日新聞社に相談をする前に、私に対して職員から相談があったところでございます。具体的には、「差し替えが可能ならば、記載内容の変更の相談をしいいか」というような内容でございました。私としては、その対応に少し「ん？」という思いがありましたが、「仕方ないのかな」という表現で返しております。「仕方ないかな、もし差し替え可能なら」というような曖昧な投げかけをしております。

これについて少し説明をさせていただきますと、職員とのメール等でのやり取りの中で、私は内容を確認して了解をした場合には、「了解しました」、もしくは「了解です」という表現をしております。それ以外の表現をした場合は、少し問題を投げかけて、どうなんだろうかというような思いを伝えるというのを慣行として行っておったところでありまして、先ほど冒頭に反省を申し上げたところではありますが、明確に否定すべき内容のものを曖昧なまま返してしまったというところが、問題の発端であらうかと考えております。

いずれにせよ、コロナに感染したであろう時期の行動についての情報提供でありますので、より慎重に判断し、より適切・正確な情報提供

が必要であったと反省をしているところでございます。

○横田照夫議員 「知事の動き」に関する掲載内容の調整が行われた一方で、1月2日には知事がコロナに感染したことをお知らせするプレスリリースが発出されております。その中でも、知事の行動履歴に関する記載がありましたが、知事が初詣等に出かけていた事実は伏せられ、「公舎などで過ごす」とのみ記載されておりました。

このプレスリリースに行動履歴の詳細が掲載されなかった経緯と、そこに至るまでの知事の対応状況について詳しく説明をしてください。

○知事（河野俊嗣君） プレスリリースの調整につきましても、事前に職員から記載内容について確認があったところであります。それについて、これも私も明確な判断をすることができなかったということを強く反省をしております。

県民に不安を与えるのはどうなのかという考えが一方にある中で、私としては、あくまでコロナ感染に伴う発表でありまして、初詣で多くの方にもお会いしているのです、事実を掲載する必要はないのだろうかという思いもございました。

職員の最初のプレスリリースの案の投げかけに対して、「初詣に関して記載しなくていいのだろうか」という、これは先ほどよりもう少し強い疑問として投げかけをしているところであります。

また、もう一つの反省点であります、「31日の宮崎八幡宮については、書かずともいいか」というのを私のほうから返しております。反省点としましては、これも、いわゆるその「知事の動き」の記述というものと、それから

コロナに感染したその後の経緯を踏まえての情報提供というものを少し混在してしまったという反省がございます。

すなわち、「知事の動き」であれば、先ほど初詣に関しては県民の関心もある、そこは情報提供すべきではないかと。ただ大祓式については、たまたま参加したものであって、必ずしも31日にそういう行為があったということを経験提供しなくてもいいのではないかとということと、ただ、コロナに感染をしていたであろう時期の行動でありますので、そこは適切に記載すべきであったと考えておりますが、そこが自分の頭の中でよく整理ができず、適切な判断ができなかったものと考えておるところでございます。

私からの先ほど説明しました返信に対し、職員からは、「外でもありマスクもしており、県民に不安を与えるので書かなくてもいいと考えている」という返信が返ってきたところであります。それを受けて、そのプレスリリースに関しましては、「了解をしました」という表現で返しております。

○横田照夫議員 次に、知事個人のフェイスブックの修正問題についてお聞きします。

知事は、宮日新聞社が「知事の動き」に初詣のことを掲載することが判明した後に、フェイスブックの内容を修正し、初詣等に関する追加の記述をしたとのこと。普通に考えれば、3日付の新聞で初詣に行ったことが公になることが判明したので、つじつまを合わせるために自身のフェイスブックを修正したと捉えられても仕方がないのではないのでしょうか。フェイスブックの内容修正に至った経緯や理由について説明してください。

○知事（河野俊嗣君） まず、このフェイス

ブックの最初の投稿について御説明を申し上げます。

あのプレスリリースが準備をされる中で、プレスリリースだけではお伝えし切れない、私は当時どのように考えていたかという所感も含めて、フェイスブックで発信し、お伝えしたいということで準備をしておいたものであります。そして、最初の投稿におきましては、そのプレスリリースの内容と整合を取る必要があると考えまして、大祓式それから初詣については記述をしないまま投稿しておりました。

その後、宮日新聞社から、記載内容の変更は認められないという回答があったところで、改めて、その時点で私としても反省し、初詣それから大祓式を含む行動歴を追加で情報提供したものであります。

もともとの当初の原稿では、その2つとも含めて準備しておいたものを、プレスリリースに合わせてそこを記載せずに投稿し、そして宮日新聞社の拒否の回答を受けて、反省して追加をしたということであります。これについても、対応が改めて迷走をしてしまったと考えております。

本来は、そのプレスリリースを公式に修正して提供すべきものであったと、そのように考えておるところであります。

○横田照夫議員 ただいま、知事の行動等について説明をいただきましたが、今回の案件に対する一連の対応は、非常に軽率で重大な誤りだったと言わざるを得ません。これらの知事の一連の行動には、やっぱり事実や情報を隠蔽する意図があったんじゃないかと考えてしまいますが、知事、どうだったのか教えてください。

○知事（河野俊嗣君） 御指摘は真摯に受け止めますが、隠蔽する、意図的に隠すという意図

は一切ございませんでした。ただ、必要なタイミングで適切な判断ができなかったことについては、深く反省をしておるところでございます。

特に、今御説明申し上げましたが、通常の情報提供とは異なり、私が感染したであろう時期の情報提供につきましては、より正確にお伝えするというのが必要なものと、そこで判断がしっかりできなかったと、深く反省をしておるところでございます。

○横田照夫議員 隠蔽の意図はなかったということですけど、知事が、職員からの提案に対して明確な判断、意思表示ができなかったということは大きな問題であったと考えます。職員から、「知事の動き」、プレスリリースに関する内容作成、調整の提案があった際に、その対応は間違っているときちんと指摘して、職員を正しい方向に導いていくことが、県政を担うトップとしての知事の役割だと思いますが、知事は今回その役割を放棄してしまったと言えるのではないのでしょうか。また知事は、常々言われておりますように、対外的には、常在危機とか対話と協働といった政治姿勢で臨んでおられますが、一方で、県庁内部における知事の姿勢、職員に対する接し方といった部分については、なかなか県民に伝わっていないと思います。今回の事案を踏まえて、県政を担うトップとしての姿勢をどのように考えておられるのかを伺います。

○知事（河野俊嗣君） 改めて、御指摘を真摯に受け止めております。トップとして、職員から様々な相談を受けたときに、適切な判断を下していく、そして最終的に責任を取っていくというのが、トップとしての在り方であろうかと考えております。

今回、自分がコロナ感染し、当時は38度ほどの熱がある状況ではありましたが、そのような中でも適切な判断を行っていくということが改めて必要と感じております。また職員との間でも、特に明日からは4期目に入るわけでございます。この長くなることによってその緊張感というものが失われることがあってはならないということを、私も選挙後の初登庁のときに申し上げたところでございますが、改めて自分自身、職員との間での緊張感、しっかりと議論し適切な判断を行っていくこと、それを肝に銘じて、今回の事案を深く反省し肝に銘じ、誠心誠意、今後、県政に取り組んでまいりたい、そのように考えております。

○横田照夫議員 次に、知事の処分についてです。

先ほど知事から、自身の処分について、給料の100%を2か月間減額するとの考えが示されました。正直びっくりしました。今回の処分内容につきましては、県民からも非常に厳しい声がある中、なぜこのような処分内容を判断されたのか、知事自身の思いや考え方をお聞かせください。

○知事（河野俊嗣君） 冒頭の謝罪の中で申し上げましたように、年末年始の一連の私の誤った判断、対応というものが、県民の皆様に変な御迷惑、御心配をおかけし、そして県政に対する信頼を失墜させる、そのような重大な結果に至ったということを重く受け止め、厳しく自分自身を罰する必要があるという判断の下で、このような処分というものを考えたところでございます。しっかりとその重みを受け止めながら、今後の教訓としてまいりたい、そのように考えております。

○横田照夫議員 最後の質問となります。知事

は、さきの県知事選挙で、激戦と言われる選挙戦を勝ち抜いてこられました。これまでの3期12年の知事の実績が多くの県民に評価された結果であろうと思います。ところが、今回の一連の不適切な対応によって、多くの県民の県政に対する信用・信頼を損ね、特に河野知事に一票を投じられた有権者の期待を裏切る形になってしまいました。

もし今回の件が、選挙戦の前や、そのさなかに起きていたとしたら、選挙の結果がどうなっていたか分かりません。それほど重大な事案であるということを知事自身、しっかりと御確認をしていただく必要があると思います。今後、この失われた県政に対する信用・信頼を何としても回復していただかなくてはなりません。

知事自身、どのように回復を図っていくのか、有権者の皆様にきちんと説明をしてください。

○知事（河野俊嗣君） 今回の一連の誤った判断、対応というものが、県政に対する信頼を失墜させたことを大変重く受け止め、そして今御指摘をいただきました様々な厳しい声というものが県庁にも寄せられておりますし、私自身のSNSを通じても御指摘をいただいております。ところであります。

改めて、真摯にそういう厳しい声というものを受け止め、今回の反省というものを生かして、私自身が今後適切に判断をしていくということ、それに加えて、適切な情報公開、情報提供、これは県政運営、行政の基本であるということを改めて肝に銘じながら、今後県政運営に努めてまいりたいと考えております。

しっかりと仕事の面で結果を出していき、県民の皆様にご理解をいただけるよう努めてまいり所存であります。

○横田照夫議員 昨年、宮崎日日新聞が議員と旧統一教会との関わりについてのアンケートを取りました。そのアンケートに対して、私は「関わったことがある」と回答しました。その内容は、県議会で家庭教育支援条例をつくった後、ある団体から私に家庭教育についての講演依頼があり、自分たちがつくった条例の趣旨等を理解していただくいい機会だと捉えて依頼を受け、講演をさせていただきました。

でも、その会場の雰囲気には何かこう違和感を感じまして、「もしかして統一教会ですか」と尋ねたら、「そうです」と答えが返ってきましたので、「もう声をかけないでください」と言って帰り、その後、一切の関わりはありませんといった内容でした。

その内容が新聞に掲載されましたが、私に関わったことに対する批判は一切なく、逆に「正直でよかった」という声ばかりでした。このように何でも正直に報告したほうが、いい結果につながるんじゃないかと思います。

河野知事には、今回の行動に対して猛省をしていただくのは当然ですが、私たち周りにいる者も、今回の出来事を他山の石と捉えて、県民からの信頼を得るに値する行動を取っていきたいものだと考えます。

私の質問は以上です。ありがとうございました。

○二見康之座長 次に、県民連合宮崎、岩切達哉議員。

○岩切達哉議員 会派を代表して質問いたします。

最初に、今般、知事動静に係る広報内容を変更依頼した問題の、発生段階での判断ではありますが、新聞報道と今日の説明によれば、秘書広報課から直接、知事にそうすることについて相

談があり、知事は熱がある中、曖昧な返事をしてしまったということでもあります。

秘書広報課職員が知事に判断を求めたということですが、知事がコロナに罹患したときに、執行部内では一つの危機管理体制が取られる必要があると私は思います。

執行部ではそのような体制になっていないのでしょうか。知事が病気になったり事故に遭われたときにどのように支えるのか、危機管理体制はどうか、まずその点を確認したいと思います。総合政策部長か総務部長か、いずれかで答えていただいて結構です。

○総合政策部長（松浦直康君） 今回のケースで申し上げますと、新聞社とのやり取りの中身といいますのが、知事のプライベートな動きに関するものであったということで、この内容について、担当職員と知事との間でのやり取りであったということでございます。

これが公務でありますとか、そういったところまでの話であるということになれば、当然、我々上司のほうにも相談があるということにはなっておるんですけれども、今回の場合はそのような特別な条件があったということでございます。

しかしながら、今回のようなお話でありますと、対外的に情報をどういうふうに出していくのか、それを県としてどういうふうに出していくのかというところは、当然判断が必要であるということでございますので、本来であれば、しっかりと組織的に情報共有して、しかるべき判断を、段階を追ってやっていくべきであったと思っておりますし、それは我々事務方としての事務運営の中での反省であると思っております。

そういう意味で、休日、そういった特別な状

況の中での判断の仕方について、曖昧な点があったとっております。そういった点については、今後しっかりと見直しを行い、しっかりとした対応ができるように進めてまいりたいとっております。

○岩切達哉議員 日常的に、知事に事故があった場合、どのような体制を取るのかというような質問の趣旨でございました。その点についてはいかがな準備がなされているのでしょうか。

○総合政策部長（松浦直康君） 御質問のようなケースであれば、当然、秘書広報課に情報が入りまして、上司に話が来るということになっておりますので、そのような体制は取られていると考えております。

○岩切達哉議員 部長からの説明で、知事と秘書広報課との直接のやり取りで判断がなされていった結果が、今回のような状況になっていると理解しているんですけれども、やはりそこには、知事がコロナに罹患した時点で組織的な対応というものがなされるべきだと、今、反省の弁もありましたけれども、そこに不足があったと思います。

そこをそう考えると、総合政策部に秘書広報課と広報戦略室というのがあるんですけれども、この秘書広報課にある知事の秘書という業務、知事動静の広報は秘書担当が行っているようですが、広報戦略室の報道担当またはメディア戦略担当という方がいらっしゃるようなんですけれども、知事の動静を——「知事の動き」ですけれども——県の広報戦略上に位置づけしていないのか。つまりは、この動静報告は県の広報戦略上にないのかを確認させてください。

○総合政策部長（松浦直康君） 県としての対外的な情報を提供していく知事の動静につきましては、当然、県としてやっていくべき責任の

ある問題であると考えております。

それで、プレスリリースに関する部分について、知事がコロナに感染されたという情報は、私のところにも参りました。それについては、プレスリリースが必要である、そして関係者にしっかりと情報を伝えていって、それを周知していく必要があるという判断の下に対処はしたところでありましてけれども、先ほど申し上げました新聞社とのやり取りのところについては、それが欠けていたというところがございます。それは、組織としての我々の反省点であると思っております。

○岩切達哉議員 知事動静は、知事の公務、政務、さらには私ごとも含めてどう仕分をして広報するか、戦略上に必要な位置づけがあると思えます。

今、お話の中でいろいろ聞きましたけれども、そういう広報に際しての留意点というのはどのように整理されているのか、確認させてください。

○総合政策部長（松浦直康君） 基本的には、提供する情報といたしましては、公務が中心になりますけれども、後は政務の部分についても、動静という部分については出しております。それから、公務、政務に関わる課題について、個人として行動されたものについても、場合によっては提供しているところがございます。そのほかのプライベートな動きについては、提供はしないという整理をしております。

○岩切達哉議員 曖昧さが残るようなお話なんですけれども、職員の判断が忖度などと批判されております。今般のような、一度出した内容を訂正してくれというものも過去にもあったんでしょうか。

○総合政策部長（松浦直康君） 知事の動静に

関する部分でございませう。結果としてどういふ動きをされたかということが、事前に報告をしておいた動きから違っていたとか、そういう場合については当然、訂正をお願いしないといふことになります。それ以外の部分については、基本的には訂正すべきではありませんし、これまではそういったことはなかったと認識しております。

○岩切達哉議員 3日付新聞では、コロナに罹患したということで、初詣も含めて報道されているんですけども、2日後に訂正の依頼があったというような内容での記事掲載になりました。

この2日間の中で、その訂正を依頼したということに対しての批判をされる形になってきたわけなんですけれども、その間の県と報道機関との間のやり取りはいかがだったのかをお聞かせください。

○総合政策部長（松浦直康君） 私の記憶でございませうけれども、知事がコロナにかかれたという一報が、2日の日に私にありました。それで、できる限りその日のうちにプレスリリースまで持っていきたいということで、そういう処理を担当職員にもお願いしたところでありませう。同時に並行して、「知事の動き」に関して、その日のうちだったと思ひませうけれども、新聞社とのやり取りがあったということ、後日、報告を受けたところでありませう。

○岩切達哉議員 新聞社と秘書広報課とのやり取りが、あつれきといひませうか、お互いに思ひをぶつけ合うような関係性になってしまひて、問題だと、こうなつたのか、新聞社さんのほうの判断もおありだろと思ひませう。今般、個人名も含めて記事になりました。非常に扱ひとしては厳しい取扱いになっております。

そういう意味で、今般の内容が、要は付度だとか、いろいろ隠蔽だとか評価されますけれども、どうにも説明を聞く範囲ではそうでもない部分もある。ところが、その辺が十分には書かれていなくて、記事には、結果的には秘書広報課に非がある印象で掲出になっています。

改めて聞きますけれども、県担当者と当該報道機関の間にあつれきがあつたのではないかと思ひませうが、いかがでございませうか。

○総合政策部長（松浦直康君） その点につきましては、私もその新聞を最初に見たときにびっくりしまひて、同じような可能性といひませうか、そういったものが頭に浮かんできたところでありませうので、直接、新聞社の方にもお話を伺ひて、そういうような、気持ちの上でのあつれきみたいなのがあつたんですかといふことはお伺ひしまひたけれども、それはありませうといふようなことでお答えをいただいたところでございます。

○岩切達哉議員 最後に、知事御自身の自分に対する処分の問題ですけれども、私としては、100%、2か月という処遇については、犯した出来事に対して大き過ぎるというような印象も今、持っています。ただ、これから条例等も出されていく経過の中で、また多くの有権者からも声を聞いて判断をしていくことになると思ひませうけれども、知事自身、適切な処分と考へておられるのか、いま一度確認させてください。

○知事（河野俊嗣君） 一連の誤つた判断、対応というものが、著しく県政に対する信用の失墜につながつたということ、を重く受け止め、判断したものでございませう。

○岩切達哉議員 今後、また2月に議論をさせていただきますと思ひませう。

この危機管理体制と連携の在り方、そこが問題だったと思います。県民にしっかりと広報すべきは広報する、情報はできるだけ公開するという方針を県は持っていて、そういう形をしっかりとベストなものに持っていかれるように求めまして、質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○二見康之座長 次に、公明党、河野哲也議員。

○河野哲也議員 公明党宮崎県議団の河野でございます。質問の機会をいただきましたので、前のお二人の質問との重複を避け、一点だけ知事にお伺いします。

本県は、新型コロナ第8波の感染拡大に伴い、昨年暮れの12月27日より医療非常事態宣言を発令し、現在もその最中であります。

第7波以前と比較して、第8波では、死亡者数が増加していること、特に直近1週間の10万人当たりの新規感染者数については、今年に入って13日連続で全国最多を記録するなど、本県は、他県と比べても大変厳しい感染状況が続いています。こうした中で、知事には、県民に対して注意喚起を促す、より積極的な発信が求められているものと考えます。

第6波、第7波のときには、適時適切に知事が会見を開き、県民へのメッセージが発信されていたことを記憶しておりますが、今年に入って感染症対策に関する知事の会見が一度も開かれていないことを、私どもは大変懸念しております。

今後、県から県民への感染対策のメッセージの発信をどう考えておられるのか、お伺いします。

○知事（河野俊嗣君） コロナも含めまして、県民の命と健康を守ることは、県にとりまして

重要な職務であると考えておるところでございます。

御指摘のように、この第8波、この年末から年始にかけて、本県は厳しい状況が続いているところでございます。何とか医療関係者の御協力もいただきながら、それを受け止めて、ぎりぎりのところで対応を図っているところでございます。しっかりと、今後とも適切な情報提供、注意喚起に努めてまいりたいと考えておるところであります。

直近この2～3日は多少減少傾向というものが見られますが、それでも引き続き、医療現場への負荷は極めて高いものがある。そして、特に高齢者施設等でのクラスターの発生により、命に関わる事例というものが続いているということも重く受け止めているところでもあります。

今、国におきましては、5類への見直しというところも議論されているところでございます。しっかりと今後とも、県内の状況というものをよく見極めた上で適切に情報提供し、また今後の取扱い等につきましても、国ともしっかりと議論を進めてまいりたい、そのように考えております。

○河野哲也議員 感染症から県民の命を守るという明確な行動を、ぜひ示していただきたいと考えております。

以上で終わります。

○二見康之座長 次に、日本共産党、来住一人議員。

○来住一人議員 日本共産党を代表して、一つ二つ質問いたします。

今回の問題は、私は決して単純なミスや思い込みによるものではない、結果的には、故意にうその情報を流そうとしたものであって、知事としての資質が問われる重大な問題だと、この

ように思います。それだけにはとどまらないと思います。県が発表する情報の信頼性が問われても仕方のない問題だと思います。

なぜこの誤った判断をしたのか、この最も重要なことについて、今日、知事はお話しされていないと思います。私はそう思います。内容を見ますと、県民に無用な不安をかけるのはどうかという理由は、これは職員の思いであって知事の思いではなかったわけです。

意図的に隠す考えはなかったと、このように発言をされましたけど、結果的には意図的に隠すことになったのではないかと思います。なぜかという、あなたが本心を語っていないからなんです。

改めて質問いたしますけど、なぜ誤った判断をしたのか、その原因を正直にお話しされたほうがいいと私は思います。熱が高くてもう意識がなかったと、事実上は。それが事実だったら、そのことをお話しされればいいと思います。しかし、30何度とか言われていましたから、ある程度の判断はできたはずだと思います。ですから、なぜ誤った判断をしたのかということについて、やっぱりもっとあなたの言葉で正直にお話しされたほうがいいと私は思いますが、まずそのことについてお聞きします。

○知事（河野俊嗣君） 御指摘を真摯に受け止めているところでございます。職員からの相談に対し、自分として適切な判断ができなかったということ深く反省しておるところでございます。

自分のフェイスブックも含めて、可能な限り情報提供したいという思いというものがございましたが、その対応の在り方、判断が適切にできなかったということ深く反省しておるところでございます。

○来住一人議員 時間がありませんから……。今の答弁を聞いていても、全然私には伝わってきません、あなたの話は。さっき横田さんが統一教会との話をお話しされました。非常に正確です。信用がありますから、本当にそれは響いてきます。あなたの今の答弁は全く響いてこないと思います。県民が一番知りたいこと、そして今後、こうした誤りを再び起こさないというためにも、その原因、真実というものを語っていかなければ、私はまた同じ誤りを犯すということになるのではないかと思います。

最後に改めてお聞きしますけど、この「知事の動き」という、これはあなたがもう今4期目になりますけど、最初からずっとあったんだろうと思うんです。これまでに事実と違うものを流したことはないのか。ここまで信用を失うわけです、あなた方がちゃんとしないと。本当のことを言っているのかということになると思いますので、改めてこの点については、これまでの知事動向の発表については誤りはなかったのかということを確認しておきたいと思います。

○総合政策部長（松浦直康君） 知事のその日の動きについての情報の提供、結果の提供でありますので、事前にお知らせしていたものが違っていた場合は当然、修正をいたします。それ以外についての修正等を頼んだことは、これまではないということでございます。

○二見康之座長 次に、県民の声、井上紀代子議員。

○井上紀代子議員 今回の問題は、全国のニュースなどで取り上げられ、これまで知事や職員の皆さん、県議会や市町村、関係団体が一丸となって築いてきた本県のイメージに大きな影響があったのではないかと、大変危惧をしています。また、今回の件では、職員の対応につい

て、驚くことに実名報道されておりますが、私としては、大変つらい思いで拝見いたしました。

私は長年の議員活動の中で、県職員の皆さんが県勢の発展のために懸命に仕事に取り組んでいる姿を目の当たりにしてきました。私は今回の問題は、そもそも知事の軽率な行動が原因であり、その後の判断の甘さが招いたのではないかと考えております。そして、その責任は、ひとえに知事自身にあるのではないかと考えていますが、改めて知事の認識をお聞かせください。

○知事（河野俊嗣君） 全く御指摘のとおりであります。全ては私が適切な判断、対応ができなかったこと、そこに原因があるものと深く反省をしております。

○井上紀代子議員 職員と、もっとしっかりとコミュニケーションを取っていただいて、二度とこのような事態を起こさないよう願っています。

本日1月20日は、図らずも知事の3期目の任期満了日であり、明日からは4期目の河野県政がスタートするという節目の日でもあります。さきの知事選挙では、県勢発展のためには県政のかじ取りを河野さんに託したいとの気持ちから、多くの方が熱心に知事を支援されてきたと思います。また県民の皆さんも、宮崎の将来はどうあるべきかを熟慮し、それぞれの思いを胸に各候補に一票を投じられ、その結果、知事は4期目を担うことになりました。

先ほど知事から、説明や反省の言葉をお聞きしましたが、私にも大きな厳しい声が届いています。今回の知事の行動や対応については、支援された方や多くの県民も落胆されているのではないかと思います。今回失った信頼を取り戻

すには、明日からの4期目について、政治家として知事として成果を出していくことが大切であると考えますが、どのような姿勢で県政を担っていくのか、知事の決意を伺います。

○知事（河野俊嗣君） 御指摘を重く、また真摯に受け止めているところでございます。

今回の事案というものを深く反省し、それを教訓として、適切な判断、それから徹底的な情報公開に努めるという姿勢で取り組むとともに、この選挙で寄せられた県民の皆様の期待に応えるためにも、しっかり仕事の中で結果を出していき、宮崎県勢の発展につながるよう、4期目の仕事に誠心誠意取り組んでまいりたい、そのように考えております。

○井上紀代子議員 知事は、県民のリーダーとして、県民が不安を持ったり疑問を持つようなことは決してしてはならないと思います。宮崎県のかじ取りを託されたということ、いま一度自覚していただき、県勢発展のために職務に邁進していただきたいと思います。

私からの発言は以上です。

○二見康之座長 次に、無所属の会チームひむか、図師博規議員。

○図師博規議員 今回の秘書広報課職員が行った一連の動きですけれども、知事はこれを、自身をおとしめようとして職員が動いたものなのか、それとも知事を守ろうとして動いたものなのか、どちらだとお考えでしょうか。

○知事（河野俊嗣君） 県職員としての職責を果たす、そのような考えの下で行動したものと考えております。

○図師博規議員 私も、知事を献身的に守ろうと思った職員が必死に動いた内容だと思っております。であればなおのこと、今度は知事がその職員を守るべきときだと考えますが、知事は

全責任は自分にあると申されつつも、またプレス発表の中では、初詣の記載をしなくてもいいということのを了承されつつも、自身の本日の処分を発表する前に、その秘書広報課の職員を処分されております。なぜそういうことをされたんでしょうか。

○知事(河野俊嗣君) タイミングについて前後があったということは、御指摘を受け止めておるところでございますが、今回の一連の対応で、それぞれ反省すべきは反省し、必要な処分を行う、その方針の下で実施したものでございます。

○函師博規議員 職員に厳重注意という処分をされておりますが、誰が決めたんでしょうか。

○総合政策部長(松浦直康君) 職員の注意の在り方につきまして、総務部と協議した結果として、業務執行の中での対応として、上司に報告が適切になされないところがあったということですので、そこの部分について、私から担当職員に注意をしたということでございます。

○函師博規議員 総合政策部長のほうからの注意だったということですが、先ほど総合政策部長の答弁を聞いておったときに考えたんですけども、今回1月2日にプレスリリースをされている内容に関して、知事は、初詣の記載を載せなくていいという了承をされていますが、総合政策部長は、それは正確にプレスリリースすべきではないかという具申をしたんですけども、それが覆ったというような理解をしまっているんですが、それが間違っておれば教えてください。

○総合政策部長(松浦直康君) 私のところにプレスリリースの最終案の確認が来ておりますので、その内容を見て確認したということであ

りますけれども、知事が初詣に行かれた、行かれないというようなところの関係については、私は承知しておりませんでしたので、その内容でいいというような確認をしたところでございます。

○函師博規議員 じゃあ総合政策部長は、その初詣の記載がなかったことは、そのとおりの行動を知事がされていたんだという理解だったんでしょうか。

○総合政策部長(松浦直康君) 記載内容のとおりだと理解をしておりました。

○函師博規議員 それでは、知事は今日、御自身の処分を発表されましたが、ここに至るまでに、処分内容につきましては、他県の例等を参考にして判断したいというようなことも発言されておったと思うんですが、どこの例を取られて、またその同等内容と判断されたのか教えてください。

○知事(河野俊嗣君) これにつきましては、先ほど御説明申し上げましたように、今回の事案に対する自分の反省というものを深く認識した上で判断をしたものでございます。

○函師博規議員 他県の例とかいうのは、もう一切関係ないということでしょうか。

○知事(河野俊嗣君) 本県の過去の事例も含めて情報自体は入手いたしましたが、あくまでも、最終的に自分の判断でこのような処分を決定したところでございます。

○函師博規議員 今日までその処分の判断がずれ込んだというのは、何か理由があったんでしょうか。

○知事(河野俊嗣君) 発表するタイミングというものを、様々な考慮を行いながら調整し、県民の代表であります県議会の皆様に説明をするこの機会を捉まえて発表したということでご

ございます。

○**図師博規議員** 私は、素早く自分の身を処し、また職員を守ると。先ほど別の議員からの発言もありましたが、やっぱり職員は一生懸命働いています。その職員を先に処分しておいて、自分の身がまだはっきりしないということについて、私は職員さんのモチベーションが上がるはずはないだろうとっております。

最後に、医療非常事態宣言発令中であります。そして、マスコミや県ホームページなどで、少しでも体調に異変がある場合には出勤や登校など外出・移動などは控えてくださいということを、県は県民の皆さんにお願いしているわけであります。

知事は今後、どのような姿勢、また発信をもって県民にこのコロナ対策を訴えていかれるのか、教えてください。

○**知事(河野俊嗣君)** 自分の判断と対応の誤りというものを教訓にしながら、しっかりと行うべき対応というものを、自分自身これから律するとともに、このコロナ、今後感染拡大防止に向けて、しっかりと理解を求めていく、対応を求めていく、そして、県民の命と健康を守る取組というものを真摯に取り組んでまいりたいと考えております。

○**図師博規議員** 以上です。

○**二見康之座長** 以上で質問を終わります。

◎ **その他**

○**二見康之座長** 最後に、その他で何かございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○**二見康之座長** ないようですので……。

〔知事挙手〕

○**二見康之座長** 知事。

○**知事(河野俊嗣君)** 改めて、本日は大変お忙しい中、この全員協議会での説明の機会を頂戴しましたことに、重ねて感謝を申し上げます。

先ほど、一連の様々な御指摘、御質問をいただきました。真摯に受け止め、また様々な形で寄せられております県民の皆様への厳しい御指摘も真摯に受け止め、今回の事案というものを深く反省し、今後の県政運営に生かしてまいります。

適切な判断を行い、そして適切かつ迅速、正確な情報提供に努めていく、そのことが県政に対する信頼というものにつながっていくということを改めて肝に銘じ、県民の皆様から託していただきました、明日から始まります4期目に当たりまして、しっかりと、コロナ、物価高等で大変な厳しい状況の中での社会経済の回復に向けて結果を出してまいりたいと考えております。

今後とも、県議会の皆様におかれましては、様々な面で御指導を願いますとともに、県民の皆様におかれましても、御理解と御協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。今日はありがとうございました。

◎ **閉 会**

○**二見康之座長** 以上で、本日の会議を閉会いたします。御協力ありがとうございました。

午後2時5分開会

署 名

座 長 宮崎県議会副議長 二見 康之